



ごあいさつ

「病院訪問ボランティア」は、2007年に乳がん患者会「あけぼの会」の活動のひとつとして、がん研有明病院に導入されました。

その後GBCSSとして独立。2012年からは、この病院で手術を受けた人達も活動に参加しています。

私たちは、乳がんの手術を受けて入院中のあなたを訪問して、話を聞き、術後の生活についての相談を受け、情報を提供して、不安をできるだけ軽くします。

同じ病を体験した者として、あなたの気持ちに寄り添います。あなたは一人ではありません。

一人で悩まず私たちと話してみませんか？

GBCSS (Ganken Breast Center Support Service)

訪問を希望する方へ

- 入院時に配布した申し込み用紙にご記入の上、9階東病棟ナースステーションに申し込んでください。
 - 面談は、入院中に1対1で行います。
 - 時間は一人30分～1時間以内。
 - 仮パッドをプレゼント。(ワコール提供)
- ※ 再建・術式・年齢などのご希望を受けることは出来ません。
- ※ 医療に関することは、医師、看護師にご相談ください。

ボランティア訪問日	
曜日	時間
火曜日	13時～
	14時～
木曜日	13時～
	14時～
土曜日	10時～
	11時～

※祭日と年末年始の訪問はありません



ボランティアってどんな人？

- 乳がん体験者である
- 術後1年以上経過し、現在体調がよい
- 所定の講習を修了し研修を受けている
(年齢・術式・家族構成などは様々です)

どんなことを聞いてもらえるの？

- ◆ 今不安に思っている気持ち
- ◆ 退院後の生活について
- ◆ 今までと違うこと(下着・趣味・家事など)
- ◆ 家族や子供・友人との関係 など

訪問を受けた方からの感想

- ◆ 同じ病気の方がお元気で頑張っていることがとても心強いです。
- ◆ 気持ちがゆったりとして、前向きな気持ちになりました。
- ◆ 乳がん経験の先輩と話して、術後の生活への不安が解消されました。
- ◆ 自分も元気になって同じ病気の方の力になれるよう治療をがんばります。 など

GBCSS

(がん研病院訪問ボランティア) は

がん研有明病院乳腺センターの医師、看護師、9階東病棟看護師の協力をいただきながら活動しています。



がん研有明病院 乳腺外科部長
岩瀬 拓士

あなたと同じ乳がんの体験者の方が、あなたが今感じている不安な気持ちに耳を傾けてくれます。

医師でも看護師でも家族でもありませんが、きっと今のあなたの気持ちを一番理解してくれる方たちではないでしょうか。

ご自分のお仕事以外の時間を使ってボランティアでこうした活動をされていますが、乳がんの病気を乗り越えて元気よく活動をされている姿を見るだけでも、勇気と希望が湧いてくると思っています。



GBCSS

GBCSSは、Ganken Breast Center Support Service (がん研病院訪問ボランティア) の略称です。

所定の講習を修了した乳がん体験者が、乳がん患者さんのために行っているボランティア活動です。

現在、ボランティアの定期的な募集は行っていません。

連絡先

bcss@hotmail.co.jp

GBCSS

がん研
病院訪問ボランティアの
ご案内

乳がん患者のあなたへ

私たち体験者がそばにいます
あなたは一人ではありません

私たちは
ピンクエプロンに
このピンクリボンバッジをつけて
ボランティアを行っています

